

会議録（要点筆記）

会議名	第4回 第6期米原市自治基本条例推進委員会
開催日時	令和2年1月31日（金）午前10時00分～正午
開催場所	米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：白石委員、山本委員、松井委員、竹中委員、大楽委員、堀井委員、中嶋委員、田中委員、谷口委員 事務局：政策推進部 西村次長 政策推進課 松村課長補佐、川崎主幹、吉井主任 傍聴：なし 欠席者：鈴木委員
議題	・意見交換 【テーマ1】オンラインでの情報共有の在り方について 【テーマ2】オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について（自治会機能、運営の在り方等） 【テーマ3】職員と地域との関わり方について
結論	・【テーマ1】防災アプリの活用、市民参加型の情報発信について検討する。 ・【テーマ2】各自治会の実態に合わせて何を残すのか、やり方を変えられるか選択できる議論の場が必要、各自治会の工夫の情報共有ができると良い。 ・【テーマ3】テーマ2に関連して、自治会運営に関して議論する際に、市が第3者の立場として自治会内の情報を整理する役割も求められている。 ・第6期の議論は第7期に引継ぎ、意見書としてまとめる。
審議経過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	1 開会 2 次長あいさつ 3 議題 【テーマ1】オンラインでの情報共有の在り方について ※事務局から資料3、4について説明 資料3を見ると、防災アプリが世代に関わらず認知度が広まっている。防災アプリはどのような形で導入されたのか。また、防災などの緊急情報以外にどのような情報を発信しているのか。テーマ2にも関わって、自治会に関して防災に関わる機能が注目されているので、防災アプリの可能性を掘り下げていくのは重要だと思う。

事務局	<p>これまでの防災行政無線の老朽化に伴い、アプリを使ってスマートフォンやタブレットから防災情報を受信できる防災情報伝達システムを導入した。主には、防災情報の発信だが、メールマガジンという形で市内のイベントや予防接種のお知らせなど幅広く各課からお知らせしている。</p>
委員	<p>フェイスブックやインスタグラムは40代、50代も主に使っているし、SNSで発信したから若い人が見るとは限らない。一度市外に出た若い人が帰ってきてくれるように米原市の良さを伝えるときにはSNSは必要。SNSを使うといっても若い人は使い方が違う。市が発信していることが若い人に刺さってない。湖南市のJK課プロジェクトのように当事者が発信しないと刺さらない。発信する側と受け取る側にギャップがあるので、高校生や中学生に協力してもらうのも一つの案。</p> <p>資料4でシティセールスプランの説明があったが、米原市がいいと言っても実態が伴わないとピンとこない。どの市にも名産品があって、素晴らしいところはある。米原市に来たらこういうことができる、こういう取組がある、住んだらどういことができるということが結びつくような情報が発信されていると良い。市でもいいものを発信しているのに、国内外の観光客、若い世代の人にあまり広がっていない印象を受ける。誰が発信しているかも重要。</p>
会長	<p>委員の御意見のように、誰が発信するかということも含めた情報発信の機能の在り方を考える必要がある。今住んでいる中高生たちが、米原の魅力を自覚して、発信していくということと、国外も含め外から来る人たちに米原の魅力を知ってもらうためには、内容が重なるかもしれないがアプローチは違う。自治基本条例推進委員会では、やはり今住んでいる人、通っている人たちが、自治基本条例の理念の下、役割がどう果たされているかということがテーマでありますので、住民がどういう形で魅力を発信し、どういう形で自分たちの地域の魅力、米原市の情報を得ているのかが大切な要素になる。</p>
委員	<p>湖南市の例に関連して、市が良いと思うことだけじゃなくて、若い彼女たちの感性で、良いことも悪いことも含めて発信させることが信用性につながっている。デメリットを隠すのではなく、悪い面もあるが良い面もあるという見せ方の方が出て行こうと考える人は少ない。</p>
委員	<p>資料4に関して、米原市が好きですかという問いに対し中・高校生では好きと答えた割合が80%を超えているが、今後も住み続けたいと思いますかという問いに住み続けたいと答える割合は半分くらいに下がる。商業・娯楽施設や働く場不満があるという理由であるが、必要な人に必要な情報が届いているか、ということを見ると、このギャップを埋めるような情報発信が必要と感じた。</p>

会長	<p>特にここ数年は、人命に関わるような災害、今までの常識が当てはまらない事態が続く中で、防災に対する関心が高まっている。防災アプリを定着させる中で、テーマ1とテーマ2をつなぐような議論として、防災情報がどのように市民の中で共有されるのかを考えると防災アプリの有効性も増すのではないかと、自治会の役割の評価も高まるのではないかと思う。</p>
副会長	<p>資料4の3ページ、調査結果の「大切にしたいもの・自慢や誇りに思うもの」を具体的な施策に落とし込むのは難しい。関わっている学生が、シティプロモーションの動画を撮って、インタビューをして配信をしているが、実際の発信媒体とかコンテンツは、観光関連とか身近なものを発信する傾向。発信のコンテンツを考えるとときには、発信主体に実際に体験させる試みも検討してもいいかと思う。</p>
会長	<p>市民参加型の情報伝達にはどういった適正があるのか、もっと広げていけると良いという委員の皆さんからの御意見をいただきました。当事者間で交流ができるというメディアを利活用して、特に戦略的な情報を考える場合に、どういうやり方をしたらいいのか、どういう内容は誰に仕掛けをしてもらったらいいいのか、については検討の余地がある。</p> <p>【テーマ2】オフライン（対面）でのゆるやかな交流・関わり方について（自治会機能、運営の在り方等） ※事務局から資料5、6について説明</p>
委員	<p>資料5の中で、縮小・廃止したい活動・事業に運動会や盆踊りなどコミュニケーションの場になるようなものが多い。防災にも関わってくるが、普段から付き合いをしたり、コミュニケーションがあると、いざ有事が起きたときに困らない。自分の自治会では、毎年防災訓練をしていて、2年に1回、運動会の代わりにバーベキューをしている。このようなコミュニケーションの場が防災活動にもつながってくる。住民同士が仲良くなることで、何かあったときに声をかけようかとなり、安心につながる。自治会のこうした活動はできる方向で考えていくことが良いように思う。</p>
会長	<p>社会の人数と構成が変わっていけば、かつてのような運動会や盆踊りなどやりたくてもやれなくなることは当然ある。自治会、地域の役割も変わらざるを得ない中で、何を存続させるかを考えることが必要ではないか。自分の自治会でも、どれもこれも維持できないということで、これは残そう、これは諦めようという選択をした経験がある。資料6からもわかるように、それぞれの自治会によって様子が違うので一律にとは言いがたい。現実には地域で何ができるかという中で、これは是非残しておきたいということ、各自治会がきちんと意識して選択をする</p>

委員	<p>タイミングが来ていると感じる。自然消滅ではなく、きちんと選択をすることが大事で、そのために必要な支援があれば考えないといけない。オフラインの対面的なコミュニケーションは大事だと委員のご意見もあったように、有事の際に誰が住んでいるかも知らないと助けが行き届かない事態にもなる。防災とか地域の存続ということを考えてときには、何らかのコミュニケーションの方法はあってしかるべき。</p> <p>自治会では、サロンとお茶の間創造事業のカフェをしている。2つの合同サロンでは、最初はお年寄り子ども会だけへの声掛けだったが、未就学児にも広げると若いお母さん、お父さんも参加してくれるようになった。道で会うと挨拶するようになったり、準備を手伝ってもらう中で、知らないお母さん同士もつながりをもっていただいて和気あいあいとした雰囲気。今年、空き家に2家族が引っ越して来られたが、クリスマス会をしたときに皆さんとつながりをもっていただいて喜んでいただいた。現在は、60歳代から70歳代前半の人がボランティアですので、できるだけ若い人にも参加してもらって、これから担っていただけたらいいかなと思っている。</p>
会長	<p>自治会や地域で活動されている人たちの工夫だとか、ここはこうやって縮小したとか、こういうやり方で新しい人に来てもらったとか、なかなか人が集まらなかったとか、隣の自治会のそういう事例を知らないのかもしれない。そのあたりの情報を出してもいいのでは。押し付けではなく、どういう地域活動が、皆さんにとっての負担と生活のバランスが取れて、楽しく皆にやっていただけるのかという情報交換は何らか必要で、地域の工夫が伝わると良い。</p>
委員	<p>毎年新しい区長さんが就任されて開かれる区長会がある。いろいろな情報交換をしているので、この区長会の中で、そういう情報交換ができるのではないかと。地域の工夫として、お田植え祭りを毎年4月に行っている。中学生くらいの女の子が少なくなってきたので、学校と連携、協力して、中学、高校、小学校の方に参加のお願いをしている。今までは部活があったので、なかなか参加してもらえなかったが、毎年決まった日にしていることもあり、部活の日程を調整して参加していただけるようになった。</p> <p>資料5の2ページ「自治会運営上の課題について」にもあるように自治会長になると、補助事業の申請が大変。簡素化していただきたい。そういったところで地域担当職員に関わっていただけたらと思う。</p>
委員	<p>変化を受け入れてもらえないと諦めて出て行ってしまおうとかそういう形になる。どちらが悪いということではなく、お互いが変わっていくための話し合いが必要では。運動会がコミュニケーションの場になっているが存続が難しいという話の</p>

<p>会長</p>	<p>中で、残したいファクターはコミュニケーション。であれば、運動会を続ける方法ではなく、コミュニケーションの方法を変えていく検討が必要。役員になったら嫌だという姿を見ていると、自治会に入ることがデメリットだと感じてしまう。例えば、ごみ当番であれば、防犯カメラを設置するとか、今の技術でなくせるものはなくして行って、負担を減らして、変化していくのがいいのではないかと思う。</p> <p>自治会や地域の活動にもれなくついてくる様々な負担が大変という気持ちになるのも想像できるが、地域のコミュニケーションや子どもたちを育むとか、いろんな要素を考えたときに、どこは維持していこうとか、残すのであれば代替措置や担い手をどうするかも一緒に考える。問題点の指摘だけに留まらずに、残すべきは何か、どこに課題があるのかというのを一度議論して、良い例を紹介したり、課題としてきちんと話し合う場が必要だと感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>自治会の運営のポイントは能動性、自主性であって、これをやらなければいけないとか、やってくださいといわれると、負担に感じてしまう。他の委員からも意見があったように、自分たちがこうやりたいというように、変えていくことが大切。資料5の2ページ「自治会運営上の課題について」を見ると、「行政からの依頼が多い」から「役員の負担が重い」、だから「役員のなり手が無い」とつながっている。自治会長になると1年間で平均1週間に2回は市役所に行くことになるという話を聞いた。そういう手間がかかるやり方を変えていくことも大切。地域によって人口や年齢層は違うが、自分たちで自治会運営を自由に変えていけるイメージをつけていくことが大切だと思う。</p> <p>【テーマ3】職員と地域との関わり方について</p>
<p>委員</p>	<p>若い世代には、なぜ自治会が必要なのかということを理解していない人が思っている以上に多い印象を受ける。先ほどコミュニケーションの場という話があったが、そういう自治会の役割をうまく伝えていくことは市の役割でもある。</p> <p>最近、自治会の役員に40歳代の若い人も入ってきて、現役世代の人が自治会長になれる自治会もあって、世代間ギャップを感じることもある。上の年代の人は、これまでやってきたから続けていきたいという思いもあるし、若い人は忙しいから簡素化して効率的にやっていきたいという思いがあって、急に変わってしまうと拒絶反応や不満がでてくる。住民同士だと角が立つので、市が第三者の立場で、中間となって、世代間ギャップを埋めていくような役割を担うことが非常に重要。</p>
<p>委員</p>	<p>自治会に不満を持っている人の中には、言える人もいるけど、言えない人は、もうこんなところは嫌だとマンションに移って、その家が空き家になるという現状</p>

<p>会長</p>	<p>があることを考えると改革してほしいと思う。広報とかの配りものにしても、新聞折り込みにするとか委託するとか、細かいことからでも負担を減らしていけると良い。</p> <p>あれもこれもやめるとするのは現実的に難しいが、こういうやり方をして簡素化できるかどうかとか、外部委託できる業務ではないかとか、誰かが、代替案も含めて議論を提起しないと変えることは本当に難しいと自身の体験を通して思います。子どもの数が減って、全国的にも子ども会のような組織が次々になくなっていく中で、子どものために何かやってあげたいと思う人たちがいるうちに、何か手を打っておかないと、自分は関係がないから何もしないというようなカルチャーを1度作ってしまうともう元には戻れない。どういう方法でやったらいいのか一度考える時期が来ている。</p>
<p>委員</p>	<p>資料5を見ると、各自治会で取り組んでいる活動がそれぞれだと感じた。いろんなところの意見を聞かれて情報発信されたら良くなると思う。</p>
<p>会長</p>	<p>前回の議論の中で、住民が職員の顔を知らない、地域のことを知らない職員が増えてきた中で、お互いのそういう部分を解消するような取組や機会を作っていくことに加え、地域が担っているいろいろな機能に対して、どういう役割を果たして、整理したりお手伝いしたりすることができるのかという意見が出ていた。お互いがパートナーになって取り組むというような議論の前に、現状の事業を一緒にやれる状況がそもそもあるか、続けていける状況があるかを整理しながら、新しいアプローチを考えていく必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>フューチャーデザインという手法があって、20年後、30年後どんなまちにしたいかということ話し合うときに、現在の自分の立場を超えて、自分たちが20年後、30年後の世界に生きているという立場で意見を出し合う。俯瞰的にまちの課題を見ることができ、建設的な意見を述べられる。3月に空家をテーマにこの手法でワークショップをするが、いろいろなことに応用できるので情報提供したい。</p>
<p>会長</p>	<p>議題 その他 事務局から住民投票条例の議決の報告</p> <p>本日の議論については、私と事務局でまとめをさせていただいて、会長と副会長でチェックをした上で、第7期の推進委員会へ審議をバトンタッチしていくことにしたいと思います。</p> <p>閉会</p>

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/>公開 傍聴者：<u> 0人</u> <input type="checkbox"/>一部公開 <input type="checkbox"/>非公開 一部公開または非公開とした理由 () </p>
<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/>開示 <input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等：) <input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等：) </p>
<p>全部記録の有無</p>	<p> 会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無 録音テープ記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無 </p>
<p>担当課</p>	<p>政策推進課</p>